

新潟県

平成4年

公民館月報

10月
第476号



越の海

野積の浦の 海苔を得ば

分けて賜れ

けふならずとも

良寛

弥彦山が日本海に落ち込む
素晴らしい景観

信濃川分水が創り出した、
限りなく広がる

白い砂浜と緑の松林

マリンスポーツ・スカイスポーツに
魅せられた若者達

オートキャンプの家族つれ

シーズンは変われども

海を求め、魚を求め、

詩情に浸る人人

寺泊は、今日も活気に溢れている

(資料・写真提供寺泊町公民館)

第33回関東甲信越静公民館研究大会

くらしの中の生涯学習

わが街にいきる公民館

転換期の公民館の在り方を追求



9月3日(木)4日(金)と、埼玉県秩父市の市民会館を主会場に、第33回関東甲信越静公民館研究大会が開催された。

従来の「研究会」から「研究大会」に衣替えをした第一年次ということもあって、「大会アピール」を加えるなど斬新な内容に期待を集め、一都十県から千三百名をこえる参加者による盛大な大会であった。

本県からは、細川正博会長をはじめ四十名が参加し、十八の

分科会に分かれそれぞれ真剣な研究討議を展開した。

基調提案によれば、いま公民館に問われていることとして、

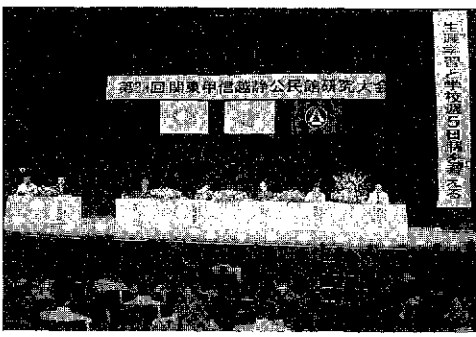
「利用者数の増大に伴い、①施設として対応しきれない傾向、②利用者の固定化の傾向、③高度な学習欲求に対応できない傾向、④趣味や稽古事の域に止まり地域還元活動への展開が見られない状況、⑤情報提供や相談事業の導入等から職員体制が問われる傾向、⑥職員の勤続の短期間化により専門職が育たない状況の慢性化、⑦気楽に学習するスペースが少ない傾向」等の今日の課題を指摘している。そしてこれに対応として、時代の転換期を直視し、「暮らしの中の生涯学習」に視点をあて、「わが

街に生きる公民館」としての在り方を見いだそうという趣旨であった。

第四分科会(成人男子)の部会は当県の担当で、発表は山田隆氏(新潟市中央公民館主事)司会は堀内清氏(新潟市中地区公民館長)助言は相庭和彦氏(新潟大学助教授)が当たり、質の高い充実した分科会となり他都県の参加者から極めて高い評価を得ていた。

第2日のパネルディスカッションは「生涯学習と学校週五日制を考える」という今日的課題をテーマにして、これまたきわめて格調の高い意見が述べられていた。ちなみに、登壇者は次の諸氏であった。

- 松 永 光 氏
- 元文部大臣、現全国公民館連合会理事
- 安 田 正 信 氏
- 埼玉県教育庁生涯学習部長
- 内 田 全 一 氏
- 秩父市長
- 佐 藤 一 子 氏
- 埼玉大学教育学部教授
- 山 崎 米 子 氏
- 群馬県太田市立宝泉東小学校長
- 坂 田 英 雄 氏
- 埼玉県公民館連合会館長部会長



県大会実行委員会開催

大会運営の成功を期す

九月一七日(木)、第43回県公民館大会の実行委員会が両津市公民館で開催された。

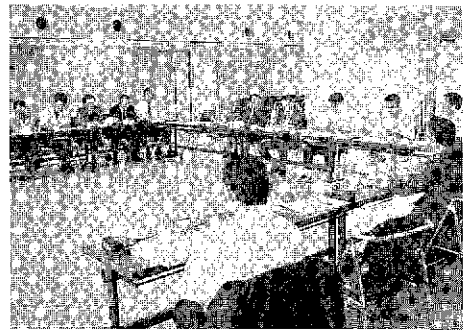
大会を一月後にひかえ、佐渡地区公連による綿密な大会運営に関する準備打ち合わせが行われた。

例年と違って、宿泊研修であること、海を渡っての参加であることなど、多くのハンデを抱

えての大会運営であることから、実行委員会当事者にとつては難問の続出ながら、一つひとつをクリアするために誠実に対処していることに敬感を表す次第である。

本土からの参加者は地元この苦勞をご賢察の上、協力して円滑な大会が運営されるよう切に祈るものである。(上村記)

に祈るものである。(上村記)



辛口

今の子どもは無気力で、家に引きこもりがちの子供が増えているのではないかと、又、人間関係に乏しく、自然体験が不足がちで情緒豊かな心が育っていないのではないかと、とも言われています。

学校開放の受皿づくり

佐藤 千枝子

できますが、心配・不安だけでは先に進めません。この機会に今まで出来なかったことをいろいろやってみて十分な体験をしてもらいたいものです。私達の子育て当時の

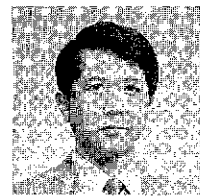
性を培うことが求められています。このようなことから学校週五日制が導入されました。家庭に地域に返されたのです。初めての試みです。子供への心配・不安は理解を引いて廃品回収など

PTA活動は物質的に恵まれなかった時代でした。ですから子供達のためにPTAが一丸となって労働奉仕に明け暮れました。子供と一緒にリヤカーを引いて廃品回収など

で尊い汗を流したものでした。又、親子のふれあいのために、親子レクリエーションも盛んに行われました。100%に近い参加者でした。現在はどうでしょう。物質的には恵まれ

もう一度「生きる」ことを

加野邦昭



バブル経済が破綻し証券ショックの結果、経済界は正業をおろそかにした愚を天下にさらすことになったし、政界は佐川問題から波及した金丸・金子の金銭問題でゆれている。教育界においても、学校五日制や学校給食制度など、

ひろば

今日ニュースを聞いていましたら全国に二万八千ほどの学校空室があり、十年後には四万室になるといいます。家族ぐるみ、PTAぐるみ、地域ぐるみで学校五日制の受皿になつてほしいものです。二十一世紀に生きる子供達のためにがんばろうではありませんか。(三条市中央・嵐南 公民館運営委員)

今考えておかねばならない問題が山積している。敗戦後、日本が経済的復興のために全知全能を傾けていたその裏側で、個人の生活感覚が変化し、アメリカによって与えられた制度自体が疲労してきていたということ、もう自明のものになってきたようだ。言ってみれば、愚直であることが合理性の名のもとに拒否され続けてきた時代を経て、私達はもう一度「生きる」ことについて考えなければならぬとぼぐちに立っているのかも知れない。

部分を一入担わされているのである。生涯学習というものが、自分の意識を何かに対して常に明瞭にもち続けることだとすれば、それは「生きる」とこと本来同義語の筈である。しかし、愚直に、誠実に「生きる」ことから、私達はどれ位隔たってしまったのか。そのような状況の中で、公民館はどのようにして人の「生きる」とことと関わる事ができるのだろうか。また専門性の欠如がゆえに社会教育の終焉が説かれたことがあったけれど、公民館に本来に必要なとされているのは専門性や情報やメディアなのだろうか。むらおこしやまちづくりは人づくりから、と昨今よく言われる。しかし、人はつくられるのではない、見いだされるのだ。自分自身として「生きる」人々を、私達はまず認知し共鳴すべきなのだ。その感性と機能を公民館に係る人達を持ち、人の「生きる」ことに対する共感と賞賛とを続けることこそ、公民館自身も「生きる」ことができるのかも知れない。(見附市中央公民館 運営審議会委員)

公民館運営委員)

執筆者紹介

三条市本成寺公民館長

山倉定雄氏

昭和62年3月三条市月岡小学校長を最後に定年退職され、平成元年6月から非常勤公民館長として現職に就任。

本成寺地区(対象人口千八百人)の活性化を目指し、「健康で、文化的で、連帯感に支えられた地域づくり」に活躍中。



山倉氏

大会分科会報告
管理運営

くための情報や施設提供をどのようにすす

供をすすめていく上での問題点は何が。

第十四分科会は、茨城県潮来町中央公民館長による「潮来町公民館の管理運営について」と題する基調提案をもとにしての研究協議であった。

一、潮来町の概況

潮来町は、水郷観光と早場米の穀倉地帯として発展してきたのが、今や鹿島臨海工業地帯の後背地として住宅地化が進み、人口急増地帯となっている町(人口二万五千人)である。

公民館は、中央公民館のほか四地区館が設置されており、職員は、中央公民館には館長以下三名が常勤職員。一の地区館にのみ常勤職員二名で、他の三地区館は非常勤または臨時職員となっている。

二、研究討議

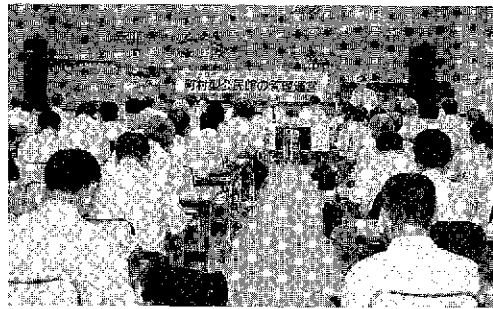
テーマは「住民の学習活動援助のために、情報や施設提供をどうすすめるか」にあったが、論議はどちらかというと情報提供策より施設提供の内容が多かったように思われる。

まず、条例・規則等の質疑から始められたが、その中で「公民館は公的機関だから、条例や規則が整っていることは必要なことであるが、規則どおりの運営は地域住民の「茶の間」としての利用に無理があるように思

われるという意見が出されていた。が、そのために但し書きの多い規則が出来るのは止むを得ないことではなからうかと思われた。

1、開館時間と夜間利用

午後五時で閉館となるが、利用者がある場合は午後十時まで開館することとし、この間は夜



間管理人を置いているという。住民への施設提供という側面からは、十分な配慮のある対応と

考えられ、多に参考になったが、反面では、この夜間管理人は「鍵を預かるだけ」の由。また、この人たちは、民間委託の交替制のボランティアによってまかなわれているという。問題

が起ったときは、メモをとっておく程度。そのメモによって翌日対処するのでは、利用者にとって不便なことは言うまでもない。これからの公民館運営の問題点であろう。事故対策や責任問題などが起きることも考えられるからである。

2、職員体制とその配置

潮来町では、中央公民館職員だけが常勤で他の地区館は非常勤である。しかも、各地区館ごとに任期二年の職員が選出されるとのこと。「常勤職員の配置が望ましい」と発表者は訴えていた。

地区館や分館であっても常勤職員が置かれ、学級・講座などが統一的に運営できるような専任職員の配置が望まれるのは何処も同じ悩みを持っているようである。本県の公民館でも、大部分は非常勤職員や民間委託の職員が多い。予算の関係で早期には実現できそうには思われないが、公民館は生涯学習時代の住民の要望に応えるためどうしても解決しなければならぬことである。公民館の活動が成功するかしないかはこの一点にかかっているように思える。

「ふるさとづくり」の成功例などを聴くと、よりよい地域づくりを目指して住民と市当局が公民館活動の一環として取り上

げ実践したという例が多い。このことから、職員体制の充実が急務であると考えられる。

3、未参加層への働きかけ

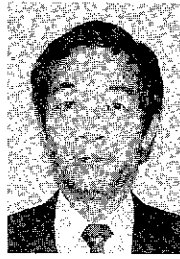
公民館が計画する学級・講座などの参加者が固定化したり、利用団体も特定されてきていることが取り上げられた。特に青年層・中高校生・一般成人男子の利用は職場や勤務の関係等により減少の傾向にあるのは問題である。「生涯学習を推進する上ではこの層の公民館活動への参加を呼び掛けることが大切」との提案があった。

これに対し、青年団や地域グループが趣味の活動や、職場のグループやサークル活動に変わってしまった現在、これらの青年・中高校生・成人男子を地域活動を中心とした学習に参加させるには、多種多様な学習要求への対応が必要になってくると考えられると、その対応の困難なことが指摘されていた。そんな中でも二三の成功例が発表され、対処の仕方や技術・方法などによっては必ずしも絶望的でないことが示されていて大いに参考になった。

以上、公民館人の苦勞と、これからの公民館の在り方について考えさせられた二日間でありました。

研究プロ公民館の 公民館の

- 研究テーマ
1. 住民の学習要求を援助しているのか。
 2. 地域に根ざした情報・施設提



伊藤氏

執筆者紹介

新潟市鳥屋野地区公民館長

伊藤 高氏

昭和38年以來新潟市の社会教育界で歩んで来られた方。社会教育課青少年教育担当、鳥屋野地区公民館、社会体育課を経て

青少年の健全育成を重点目標の一つに掲げ、アドベンチャースクールなどに取組んでいる。

第十五分科会は、神奈川県藤沢市公民館長による「施設管理システムと情報提供」と題する基調提案をもとにしての研究協議であった。

一、藤沢市の概要

昭和十五年の市制施行当時三万八千人の人口が平成四年現在は三十五万人の都市に成長。古いまちと新しいまちが、それぞれの歴史と特性をもちながら、ひとつの都市を形づくり、湘南の経済と文化の都市として発展している。

公民館は、単独公民館三館、併設公民館十館。中央公民館を持たず各地域の特性を生かして事業を推進、十三館の年間事業数は五百、年間延二〇万人の市民が地域活動の拠点として利用している。

二、藤沢公民館の概要

対象人口三万八千人、地域内に小学校五校、中学校三校、また四百メートル離れたところに武道館を有する分館がある。

1、施設規模と利用者数

三階建て、述べ面積一七一六平米で九室、自主サークル数一二一、三万五千人の会員が活動し、年間利用者は本館七万三千人、分館五万人。

2、職員

職員

館長、事務職員四、用務員一の計六名のほか、非常勤として社会教育指導員二、体育指導員二、その他に土・日及び夜間の監視員という体制である。

三、施設管理システム

1、利用者登録と使用中諸手続
常時使用する団体は登録のうえ利用者カードを発行する。団



体の情報をコンピュータに入力しておくことにより使用申請時の細かな聞き取りが不要。また、手続きが正確で簡単。

2、使用状況統計

月間・年間の件数、人数、回転率等煩雑な統計業務が即時に器械処理できる。

3、情報提供

毎日出力される使用日別利用

状況表により「本日の部屋使用予定」の案内、本館・分館とも本日の予定が分かり電話等の問い合わせにも対応できる。また、サークル一覧表の作成も可能で学習相談の資料となる。

四、事業の情報提供

「広報ふじさわ」月二回発行
全世帯配布の公民館催し物欄、及びテレホンガイド・チラシ等
地域ミニコミ紙「ふじの輪」の発行、藤沢公民館の地域内一万五千世帯に配布。

五、今後の生涯学習システム

現在二館のみの施設管理システムを社会教育施設一本に統括するシステムに構築する検討委員会ができています。

質疑応答の中から

質疑応答の中から

全体協議

質 夜間は監視員のみなのか、

また、使用許可書の発行は？

答 事業のある時以外は土・日・夜間とも監視員のみ、また監視員は利用許可書は出さない。

質 施設利用は有料か？

答 藤沢市の公民館は全て無料

質 貸し出しの集中する部屋の場合はどうするか？

答 毎月一日に抽選を行い決定している。

質 使用出来ない団体は？

答 営利を目的として使用する団体等、法二三条関連に該当するもの。

質 コンピューターは全職員が操作できるか。また、メリックは？

答 全職員が可能。統計処理がスムーズに行く。

質 社会教育指導員・体育指導員の勤務日数及び業務内容？

答 社会教育指導員は月十一日間、体育指導員は月七日間出勤し、職員の内画の補助をする。両職とも市が委嘱する。

質 年に数回しか使用しない団体にも「利用カード」を発行するの？

答 いわゆる定期的使用にしかカードは発行しない。

全体協議

全体協議では、コンピューターの導入を検討している自治体はごく僅かで「システム管理」に関する突っ込んだ議論はなく盛り上がりは少々欠けていた。人口三万人程度で、本館・分館二館のためにコンピューターによるシステム管理をするメリック・デメリックについて、財政当局への説得などについて、更に深い話しや議論が必要であったように思うが、周辺部分の質疑応答で予定時間を消費した感否めなかった。

変る社会の中で 着実な生活設計を

(新潟県貯蓄推進委員会)

上越地区公民館職員等研修会

学校週五日制への対応

本音を出しあつての討議

去る九月一日(火)二日(水)の二日間にわたり上越地区公民館連絡協議会主催の公民館職員等研修会が松之山温泉白川屋旅館を会場に開催された。主管の東頸城郡公連関係者の周到な準備による充実した研修会であった。上越地区は、三市十八町村と比較的コンパクトにまとまった地区であることから、公民館の抱える問題も共通している面が多く、いわゆる、気のおけない同志の本音を出しあう研修会という印象が強かった。

テーマは「学校週五日制に対する公民館の対応」で、この時点では、十日後に迫った第二土曜日を目前にしての、実情発表の様相を示していた。

一、実践発表の中から

まず、学校週五日制に対する基本的理念については、当然のことながらどの発表者も共通した認識に立っていた。つまり、

①単に月一回の土曜日の午前のみの対応ではなしに、いわゆる少年対象事業の一環としてどう捉えるか。

②子供を家庭に返すこと、家族とともにあることを前提とし、家庭や地域の教育力をどう高めるか、また、公民館はどう関わるべきかが課題である。

③したがって、社会教育施設や社会教育関係団体はもちろん他行政施設や団体・民間団体等の実施している少年教育事業等全体の中で、公民館の対応を考え

ようという点にあった。

この共通した対応を前提として、つづつ、個々の発表内容の特色を紹介する。なお、発表者は次の五氏である。

発表者

上越市立公民館長

田畑耕一氏

新井市公民館主任

金子卓也氏

糸魚川市中央公民館主任

細井和也氏

大高村教育委員会社会教育係長

上野良八氏

妙高村教委派遣社会教育主事

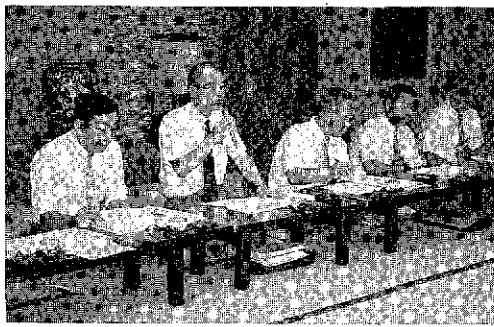
鶴巻光臣氏

上越市では、前記の③に関して、土曜日に実施可能なものを取り出して軌道修正すべく調整中である由。

◇新井市では、「地域づくり自主活動団体」(町内会、集落を単位としたコミュニティ自主活動団体)が各団体の地域活動に期待している。

◇糸魚川市は「地域子ども会」の活性化をねらい、指導者研修に力を入れるとする、いわば、間接的・二義的な公民館の対応を検討している。

◇大島村では、「音楽の村づくり」を核として活動の中に、子供たちの参加を広く呼び掛けるという、極めてユニークな対応を実施している。



◇妙高村は、「村の小中学校が文部省の「学校週五日制調査研究協力校」基本的には、公民館は「積極的な受皿にはならない」ことにし、相談されたら対応で

きるように活動のメニューは用意している。また、家族や少年のグループ等が自主活動の際に指導を受けられるよう「村の先生」と称する人材バンクの活用



をPRしている。

なお、発表者の鶴巻氏は、派遣社会教育主事の立場から公民館を客観視し、公民館は子供たちが喜んで集まってくる(利用する)ような魅力ある施設になる必要があることを強調していた。その魅力を要約すると、

①子供たち同士の生き生きとした創造的な遊びがあること。

②子供の悩みや苦しみを親身になって聞いてやる人がいること

③子供の立場になって叱つてくれたり、賞めてくれたり、教えてくれる人がいること。

④子供の良い点や長所を見付けてくれる人がいること。

また、公民館は子供たちに生涯学習の観点からの、存在感を高める必要がある。そのためには、前記のことを実現するため人材の確保や職員の充実(パートの活用)、人材バンクの活用などで、サービスの向上に努めなければならない、と訴えていたが、大いに傾聴すべきこととして強く印象に残った。

二、意見交流の中から

発表後の意見交換では次のことが指摘されていた。

◇子供たちへの対応が基本的には親にあり家庭にあることの確認と、公民館としては、子供を対象にした直接的対応と、親の教育など間接的な対応を考える必要がある。

◇また、地域ぐるみの対応が重要であることは言うまでもない。公民館と町内・集落との結びつきをもう一度見直す必要がある。

◇いずれにせよ、公民館は子供対象の事業の増加や新設から免れない。とすれば、施設の整備充実が極めて重要。

◇そのためには、声を大にして施設設備の充実と、公民館職員並びに指導職員の増強を行政・関係機関へ訴えよう。

サークル交流

筆硯を生涯の伴侶として

中之島換鷺会

公民館の生涯学習の一環として
て発足した書道教室の修了生で
構成する自主的なサークルであ
る。

教室では限られた回数の中
で、ひととおりの書道の知識を
得ることは出来たものの、技術
面においてはまだまだほど遠い
ものであった。しかし、どうせ
始めたのであるから、何んとか
続けていきたいという会員の強
い要望があり、会の発足となっ
た。



会員は、四十代から六十代と
巾広く、一日の仕事や家事を終
わらせての出席は、家庭の理解
はもとより、並大抵のことでは
なからうと思われるが、出席率
の良さは個々の熱意の現われで
あろうと頭のさがる思いであ
る。

机に向かつて筆を持った時の
緊張、そして嬉々とした面々、
時にはコーヒータムなども設
けてリラックスして世間話に興
じたりしている。

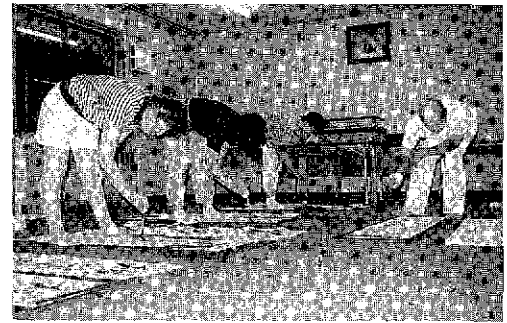
緊張せずに、親睦と友和を
モットーに、これからの人生の
糧として、息の永い会にしたい
ものだと願っている。

(小谷松啓介 記)

親子陶芸教室の指導で 生涯学習の楽しさを体験

陶芸自主グループ

公民館の陶芸講座を卒業して
自主活動をしている陶芸グルー
プが5つあり、曜日別に活発な
活動を続けています。そんな折
り、公民館の夏休みの「親子陶
芸教室」の指導依頼があり、皆
驚きと戸惑いのなか生涯忘れら
れない体験をいたしました。な
にしろ、教わる方も教える方も



1年生とあって緊張の連続でし
たが、最終日には無事百六十名
の参加者全員に「世界に1つし
かない作品」を手渡すことがで
き、私たちも感動の一瞬でした。

この講座は7月21日から8月
21日までの1ヶ月間に4コース
で3日間の日程で実施され、
カップやペン立てそれに花瓶な
どの成型をし、素焼きの後は釉
薬かけを指導しました。どの作
品も創意と工夫に満ちた作品揃
いで、親子わいわいと楽しい触
れ合いの場であった事に、改め
て感慨深いものがありました。

初めての指導体験とあって、
各コースの指導者も事前研修に
力が入り、私たちに心地良い
生涯学習活動になりました。

(細貝溪子 記)

名立町公民館主事補

笠原 洋 子さん(25歳)

笠原洋子さんは平成元年十月
から今の仕事に携わり現在二年
六か月、若くて明るい性格はい
つも「洋子さん」の愛称で通っ
ている。堂々とした体格と積極
的な仕事ぶりは正に使い滅りの
しないタイプ。



昨年四月から派遣社教も現場
復帰、後任のないまま、体協の
事務一切を
仕切り係長
と共に大忙
しの状況。
でも彼女の

素顔拝見

加茂市公民館主事

相田 優 子さん(23歳)

初めての社会人、公務員生活
に胸をはずませ、張り切って公
民館の仕事をはじめた。

まず、昨年度の実施表を見て
事業が夜と日曜日に集中してい
るのでガツガツしていた。

実際に事務を始めて、各講座
等の計画を運営委員会の人たち
とまとめるのに四苦八苦。でも
何となく計画が出来上がって
ホッと一息。なかなか前途多難
だが、持ち前の明るい性格と負
けん気が乗り切ったようだ。
趣味は、大学で日本画を専攻



したことも
あって、絵
を描くこと
だそうだ。
「まだ勤め
たばかりで、時間が取れなくて
…」とボヤいていたが、「最近、
少し余裕がでてきたと見えて、
大作?に取り組んだようだ。

なにしろ公民館開設以来、初
めての女性の専任職員である。
ガンバって利用者から愛される
公民館主事を目指して、大きく
羽ばたいてほしい。

(加茂市公民館長
坂上利男 記)

グチは聞いたことがない。「公民
館活動は町民とのコミュニケー
ションの場、忙しいがやりがい
のある仕事、仕事のあとの充実
感を思えばつらくない。」時に余
暇を見出せば家族との旅行、
ドライブ、友達との雑談でスト
レスを解消するようつとめてい
るといふ。

最近感じられることは短期間
で仕事にも精通し、特に電話の
応対がすばらしい。勿論独身、
そろそろ相手の欲しい年頃、よ
いお婿さんはいませんか?
(名立町公民館長
金子安三 記)

ネットのーろ

ビデオ「さよさんの春」 租税教育教材はいかが!!

「新潟県租税教育推進協議会」をご存じですか。この協議会は、昨年十月に発足したもので、構成員は県教育

長を会長に県内の市並びに町村教育長会長及び中小高校長会の各会長、それと当県公連会長です。

協議会の目的は、源泉徴収の浸透などで薄らぎつつある納税者意識を高めるため、租税教育の推進を図ることにあります。県民の一人一人から租税について正しく理解してもらうために、公民館も大切な学習活動の



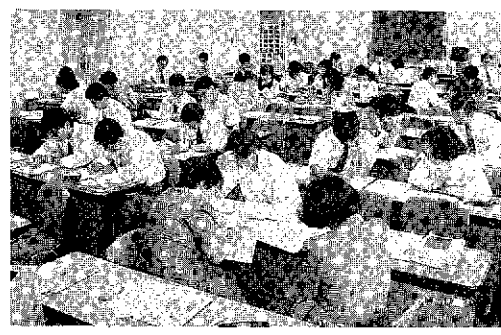
「さよさんの春」は、NHK総合テレビで放送されたテレビ番組のビデオ化です。内容は、相続税の基礎知識から、具体的な申告書の作成まで、わかりやすく解説されています。また、相続税の重要性や、納税の意義についても詳しく説明されています。視聴者には、相続税の知識を身につけるだけでなく、社会貢献の意識を高めることも期待されています。

場です。公民館の学習活動の環境として利用できるかっこうな

高齢者の「交通安全学習」を

近年の交通事故の激増は大きな社会問題である。とりわけ、高齢者の交通事故増加の傾向が憂慮される。

そのため、高齢者の交通行動の特性を理解し、高齢者のための「交通安全学習」をするのも公民館の必要課題であろう。次に示したのは、県交通安全対策連絡協議会提供の資料によるものである。



県立生涯学習推進センターの

初級コース研修終わる

主催事業として同センターを会場に、生涯学習指導者研修会の初任者コースが、九月十七・十八日の二日間わたり開催された。この研修会の受講者の多くは市町村の社会教育関係職員が多く、とりわけ、公民館職員も多くが参加しているもの。当県公民館連合会でも、初任者のための研修機会として大いに期待しているものもある。

前期研修からわずか三カ月しか経過していないのに、どの受講者の態度も自信と落ち着きに満ちているように見えたのは編集者の欲目であったらうか。

- ①歩行速度が遅く、身体の反応も遅れがちで、素早い行動ができない。
- ②足元ばかりが気になり、危険

- ①交通環境についての情報摂取が不十分で、判断の適正を欠く。また、反射神経が鈍くなり、とっさの対応が遅れる。
- ②体力の衰えなどから、運転操作が不的確になったり、長時間

の発見や回避が遅れがち。③平衡感覚が鈍くなり、バランスが取りにくい。④道路交通の変化等、新しい状況への適応力が弱い。⑤運転経験のない人が多く、交通ルールや自動車の特性についての知識に乏しい。

あとがき

◆本紙の「辛口」欄で、佐藤千枝子氏は、全国の学校の空き教室が今すでに二万八千室、十年後には四万室になると指摘しています。その着眼の鋭さに敬意を表する次第です。そしておそらく、この空き対策は遠からず全国的な問題になるだろうと予測します。

◆社会教育施設としての公民館は施設備の充実という観点から、この学校空き室とどのような関わりを持つのか、持つべきなのか、今から真剣に考える必要があるように思いますがいかがですか。

(上村記)

発行所 新潟県公民館連合会
 【新潟市川端町2-9・県林業会館内】
 【電話・新潟 (025) 224-6073】

発行人 会長 細川 正博
 編集人 事務局長 上村 捨二郎
 【定価1部130円 年共 1,560円】